

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	ベトナム語における名詞句の特性についてのフィールド調査
氏名 Name	王丹（おうたん）
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	文学研究科 行動文化学専攻 博士後期課程 2 年
渡航国 Country	ベトナム・ハノイ、ホーチミン
渡航日程 Travel schedule	2025 年 3 月 8 日 ～ 2025 年 4 月 12 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

報告者の研究内容及び渡航目的

報告者は、日本語、ベトナム語、中国語の名詞句の特性に関心を持ち、博士後期課程への進学後は、さまざまな視点から研究を行ってきた。現在は、ベトナム語における名詞句の定性と類別詞の関係について調査と分析を進めている。

定性（definiteness）とは、現実世界に存在する事物と、それを指し示す言語表現との関係を反映する名詞の特性である。たとえば英語では、話し手がある指示物に言及する際、聞き手がそれを同定できると想定する場合には定冠詞 the を用い、そうでない場合には不定冠詞 a/an を用いる。しかし、ベトナム語には英語のような冠詞が存在せず、類別詞が定冠詞の表示を担うことがある。類別詞（classifier）とは、日本語の「個」や「匹」のような助数詞に相当するものである。ただし、日本語の助数詞同様、「りんごを一個食べた」、「二匹の犬がいた」のような使い方のほかに、ベトナム語では、数詞を伴わない「類別詞＋名詞」、つまり、「個りんご」、「匹犬」のような使い方も存在する。

ベトナム語では、類別詞は定の文脈で頻繁に用いられるとされ、多くの場合、名詞句の定性は類別詞の有無によって判断できると考えられている。しかし、実際には類別詞が不定の文脈で用いられることもあり、このような用法に関する研究は十分とは言えない。類別詞がどの条件において定/不定の文脈で使い分けられるかは未だ明らかになっていない。従って本研究では、ベトナム語の名詞句の特性、特に名詞句の定性と類別詞の関係を明らかにすることを目的として、ベトナム語母語話者を対象としたフィールド調査を実施し、類別詞の使用に関する記述を発展させたいと考えている。

成果 Outcome

1、研究成果

今回の渡航では、ハノイに 4 週間、ホーチミン市に 1 週間滞在し、自然談話の収集とアンケート調査を行った（当初はホーチミン市に 2 週間滞在する予定であったが、1 週間で計画通りに十分なデータを収集できたため、より効率的な作業遂行を考慮して早めに帰国した。）収集した自然談話は、北部方言話者によるものが 2 本（各約 20 分）、南部方言話者によるものが 2 本（20 分と 5 分）である。現時点では北部方言のデ

一タの書き起こしが完成しており、南部方言の書き起こしは進行中である。アンケート調査については、すでに 20 名から回答を得ており、今後さらに約 10 名からの回答を予定している。調査結果は現在分析中だが、これまでに得られたデータからは、類別詞の使用に関して先行研究とは異なる傾向が見られた。先行研究では、「類別詞＋名詞」は定の文脈において使用される傾向が強く、定指示の既定形として広範な文脈で自然に用いられる一方、裸名詞の使用はより制約を受けやすく、しばしば不適切とされる。しかし、今回の調査では、カジュアルな文脈においては、前文で言及された定の指示物に対して類別詞を用いない方が自然であると判断されるケースが多く見られた。先行研究のデータは物語、映画の語り、英語からの翻訳資料などで構成されており、類別詞の自然な日常使用を十分に反映していない可能性がある。また、今回の調査では、類別詞の使用が話し手と聞き手の関係性にも影響されることが分かった。より親しい関係にある場合は類別詞を用いない傾向があり、ポライトネスが求められる関係では類別詞を用いる方が自然とされる。つまり、ベトナム語の類別詞の用法にはスタイルやポライトネスとの関連があると指摘できる。

2、人脈ネットワークの形成

報告者は 2024 年 2 月から 3 月にかけて、京都大学多文化共学短期派遣プログラムに参加し、ベトナム北部のハノイに 2 週間滞在した。滞在中、ベトナム国家大学の人文社会科学大学および外国語大学に通い、両大学のベトナム人大学生数名と良好な関係を築いた。今回の渡航では、去年知り合った学生たちと再会し、より深い関係を築くことができた。彼らの協力のもとで自然談話とアンケート調査を無事に完了し、書き起こしと翻訳作業もほぼ完了した。また、彼らを通じて新たな人々とも知り合い、インフォーマントの数を大きく増やすことができた。さらに、ハノイに滞在中には、「International Conference on Functional Linguistics and Multimodal Study」に参加し、言語学を専門とするベトナム人の学生や研究者とのネットワークも構築した。学会で知り合った学生がホーチミン師範大学に所属していたため、ホーチミン市滞在時にはこの大学を拠点として調査を行うことができた。このように、ハノイに 2 つ、ホーチミン市に 1 つの拠点を築くことができ、今後の調査を円滑に進める上で非常に有意義な成果であった。

3、ベトナム語の日常会話への慣れ

一カ月にわたる滞在を通じて、ベトナム語母語話者が日常生活でどのように言語を使用しているかを間近で観察できた。たとえば、ホテルのスタッフや、店員などが「hai nước (二 水)」、「hai cơm (二 飯)」のように表現することに気づいた。日本語では、「水 (を) 2 本」、中国語では、「2 瓶水」のように類別詞が必要であり、省略は通常許されない。この点から、ベトナム語、中国語、日本語間での類別詞の使用に関する相違点が明らかとなった。また、ベトナム語の人称表現にも馴染むことができた。ベトナム語の人称は非常に複雑であり、相手の性別、年齢、社会的地位などによって適切な表現を選ぶ必要がある。たとえば年上の男性には「em (私) — anh (あなた)」、年下の相手には「chị/anh (私) — em (あなた)」のように使い分ける。また、「cháu (姪) chào (こんにちは) bác (伯母)」のように、相手が目上の人であれば親族名称を使った挨拶表現になる。さらに、北部と南部の両地域に滞在したことで、両方言の発音の違いも聞き分けられるようになった。

今後の展望 Prospects for the future

1、学会発表

今回の調査で収集したデータに基づいた口頭発表が、第 170 回日本語学会（2025 年 6 月 28 日、明海大学）に採択された。今後はアンケート結果の集計・分析を進め、発表資料を準備し、研究成果を報告する予定である。

2、学術論文の投稿

学会での発表内容を基に、英語で投稿論文を執筆し、海外の学術誌に投稿する予定である。ベトナム語研究に関心を持つ研究者に注目されるよう、尽力したい。

3、博論の執筆

今回の渡航の主目的は博士論文の一部を完成させることであった。今後は、収集したデータに基づき、本格的に博士論文の執筆に取り組みたい。

4、今後の研究キャリア

本渡航を通じて、報告者は初めてフィールド調査を実施することができた。まさに「ゼロから一」への大きな一歩となった。今後も研究分野で活躍するため、本調査で得た貴重な経験を今後の活動に活かしていきたい。再びベトナムで調査を行う機会があれば、今回の経験をもとに、より円滑に調査を進められると信じている。